



真志会

澤本 長俊 議員

全国的な問題である人口減少、特に高島市は人口減少に加え、超高齢化の問題も抱えている。

高島市の人口動態を見ても、令和5年1月末で、20歳～64歳の人口が2万2千821人、65歳～89歳までの人口が1万5千189人となっており、20年後は20歳～64歳が1万6千358人と約6千500人減少しているのに対し、65歳～89歳は1万5千641人と452人の増加となっている。

高島市の人口動態からみる今後の介護福祉について

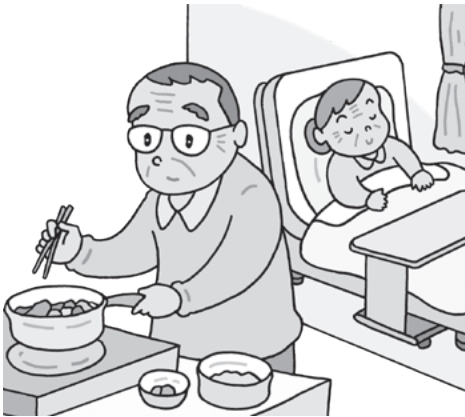
問

20年後の高島市の介護福祉に対する考えは

答

適切にサービスが提供できるよう取り組んでいきます

こういった状況からみても、高島市の介護現場がこのままの状態が進むと運営が維持できなくなり、危機的な状況になるのではと考える。



介護人材不足に対しては、市も危機意識をもって様々な対策を講じていただいていることは承知しているし、必要なことであると理解している。しかし、そういった対策は、現在の状況に対して講じているもので、支える世代の人が減少していくことに対しての対策とはならないと考える。

現在、介護認定者数が約3千400人、入所できず待機されている方が170人、在宅で介護されている方が約2千600人。今後はさらに待機者が増え、在宅介護の

増加が予測できる。

こういった状況を踏まえ、中長期的な方向性として、小規模多機能型居宅介護など、在宅での介護の支援体制をさらに充実、安定させていくように、進めていくべきではないかと考える。



問 20年後の高島市の介護福祉に対する市の考えを問う。

答 市長

2040年問題は、今後の介護福祉分野だけではなく、社会構造の変化など、あらゆる分野にわたってのコミュニケーションを重ねながら、持続可能なまちづくりにつながる責任を認識しています。そのようなか、現在現役世代の急激